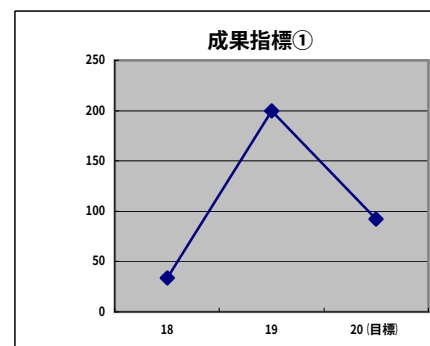
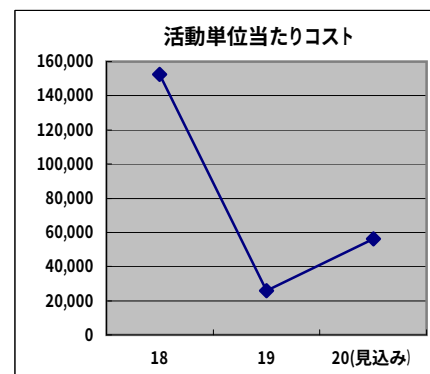


事務事業名		文化財保護事務所管理事務		予算科目	会計	1	一般会計	
					款	10	教育費	
					項	5	社会教育費	
					目	4	文化財保存事業費	
					事業	1	事務所管理	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち	作成部署				教育委員会事務局生涯学習室社会教育課
	施策(節)	5	市民文化・芸術	連絡先				072 - 958 - 1111 内線 4480
	施策の方向	(1)	歴史的資源を活かしたまちづくりの推進					
関連する計画等								
事業の目的	対象(誰を・何を)							
	市内から出土した遺物							
	意図(どういう状態にしたいのか)							
事業の内容	適切に保存、管理し公開する。							
	発掘調査により出土した遺物を分類・整理し、市役所に併設する文化財保護事務所で保管する。またこれらの資料を保管するための施設を維持管理する。							
根拠法令等								
事業開始時期		☐ 昭和 ☐ 平成 年 月開始 ☒ 明確にはわからない				終了年度	平成 年度	
事業開始時からの状況変化								
市民や議会の要望								
実施手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先		☐ 外郭団体委託 名称 ☐ 民間委託		委託内容				

区 分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		560	514	566
人件費【2】 (千円)		4,620	4,620	4,620
職員数	正規職員	0.40 人	0.40 人	0.40 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.70 人	0.70 人	0.70 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		5,180	5,134	5,186
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	5,180	5,134	5,186
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
① 整理した遺物件数	件	34	200	92
②				
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		152,353 円	25,670 円	56,370 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		43 円	43 円	43 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		指標設定の考え方		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	①	整理した遺物件数（件） (式)		目標	34	200	達成率(%)	100.0%	92	
				実績	34	200				
	②	(式)		目標			達成率(%)			
				実績						

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	文化財保護の上で、出土遺物、図面、写真を整理する上で不可欠な施設であり、市の関与は必要である。
○						○		○			

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	発掘した文化財を整理、保存する施設として必要不可欠である。	
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐		
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐		
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐		
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐		
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐		
	緊急性が認められる	☐	☐	☒		
効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☒	☐	☐	作業の効率化のため最小限の経費で作業を行う。また、作業室における光熱費の削減につとめている。	
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒		
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐		
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐		
	民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☐	☒	☐		
有効性	上位の施策（目的）が明確である	☒	☐	☐	文化財の整理、保存に不可欠である。	
	上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐		
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒		
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	整理遺物数は年度によって出土の増減があるため達成目標が変化する。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	文化財保護の上で出土遺物、図面、写真を整理する等、これらの資料を保管する施設として必要である。	
	今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）	
	文化財の整理を推し進める上で作業場の充実を図る。	